

シベリア慰霊の旅（短歌）

静岡県 田村 亀吉

野の花 テルマ墓地

戦友の墓地は何処ぞ

雨に濡れ白樺林のけもの径行く

眼をとじて深く祈りぬ

たをれたる友等が眠る荒れし墓原

戦友の鬼哭の涙か夏ながく冷たき雨は墓前を濡す

簡素ながら心をこめし祭壇に

トモ ロシアの乙女が捧ぐ野の花

戦友よすまぬ誠にすまぬ

此の広きシベリア大地に抱かれ眠れ

コウ 香の煙 クリドゥール墓地

戦友のいのち幾たり奪いしや

シベリアタイガつらぬく鉄路

日本人墓地此の奥と聞く

さみどりに蕨^{ワラビ}萌えたつ杣^{ソマミナ}径登る

亡き戦友のおらぶ声かも

クリドゥールの峠^{コダマ}に銜^{コダマ}しひとつかみなり^雷

大方は自然に還り葬^{ハツ}り処^ドを

僅にとどむクリドゥール墓地

懇ろに吾等が手向^タく香の煙原生林の奥に消えゆく

草^{シトネ}の褥 敗戦行

平房―阿城―海林・中間集結地へ

次つぎに武装を解かる兵吾れは

剣を差し出すソ兵の前に

シヨウ 戦捷^{シヨウ}を祝^{シヨク}して青天白日旗戸毎に掲ぐ村落を過ぐ

真夜中の峠^{ヒトク}は嶮^{シシガリ}し殿^{ヒトク}に遅れし兵を助けつつ越ゆ

戦いを遁れ去りし人氣なき開拓団の村中の道

隊列はいつしか崩れ乱れつつ屍臭漂ふ林を抜ける

幾夜さを野営かさねて此の夜半の

草の褥は雨に濡れたり

軍歴

昭和十五年八月二十日 現役兵として広島集合地
於 第八航空教育隊に入
隊

昭和十五年八月二十八日 駐屯地牡丹江省海浪着

昭和十五年九月十日 第十野戦航空廠へ転属

駐屯地三江省佳木斯

昭和十六年七月 関特演に依第十野戦航

空修理廠と改編

一 航訓練終了後、製図

技兵として技術部勤務

技術伍長 本部勤務

昭和二十年三月一日

功績事務 昭和二十年八月二十三日 平房飛行場にて武装解

除

昭和二十年十一月 入ソ 以降 テルマ

二〇七分所

主なる工事。シベリア鉄道本線イズベス
トコーバヤ駅から北上、テルマを経てウル

ガルでバーム鉄道と交差、全長三五六キロ
メートルのウルガル鉄道の敷設、特にテル
マ河鉄橋の架設は難工事

昭和二十四年九月一日 山澄丸にて舞鶴港上

陸、復員